

感情ブースターでキャラクターを揺さぶる

内面の緊張が限界を超えてしまうと、理性的な思考や行動はできなくなる。激情に身を委ねれば、一時はすっきりするかもしれないが、代償を伴うことがほとんどだ。激情に駆られたキャラクターはどのように反応し、後悔の道へと突き進むのか。このチャートを使ってアイデアを出してみよう。

判断の誤り

- 常識がわからなくなる
- 理性を失った思考や偏見
- 結論に飛びつく
- イエスカノーかの二項対立的な考え
- 妥協できない

価値観の崩壊

- 道徳的に一線を越える
- 法を破る
- 偏見に縛られる
- 暴力に手を染める
- 正しい道よりも楽な道を選ぶ

事態の悪化

- 危険を顧みない
- 軽はずみになる
- 理屈よりも感情で動く
- 脅威や危険、思い違いに気づかない
- 他人を危険にさらす

自問自答

- 自己肯定感がなくなる
- 脆弱な気持ちになる
- 自分には力が足りないと感じる
- 後悔や自責の念に駆られる
- 自己破滅的になる

人間関係の崩壊

- 短気になる
- 人に食ってかかる
- 相手の動機や忠誠を疑う
- 誤解が起きる
- 自分の殻に閉じこもる

評判の低下

- 論理の破綻ぶりを人に見せる
- 間違いを犯す
- 自制心を失う
- 自分の偏見を表に出す
- 圧力に負けて精神的に参る

キャラクターの思考過程を考える

ある状況において、キャラクターの信念が拮抗していると、キャラクターは葛藤を覚える。この状況を乗り越えるには、キャラクターは自分自身に問いかけ、何が最も重要なのかを突き詰めなければならない。このときいろいろな要因を考慮に入れるわけだが、その思考過程は人さまざまで、状況によっても異なる。そこで、書き手は次の質問に答えながら、キャラクターが何を懸念しているのかを考えてみるといいだろう。自分がとる選択または行動の結果を恐れるあまり、キャラクターが自分自身にブレーキをかけていないかも考えてみよう。

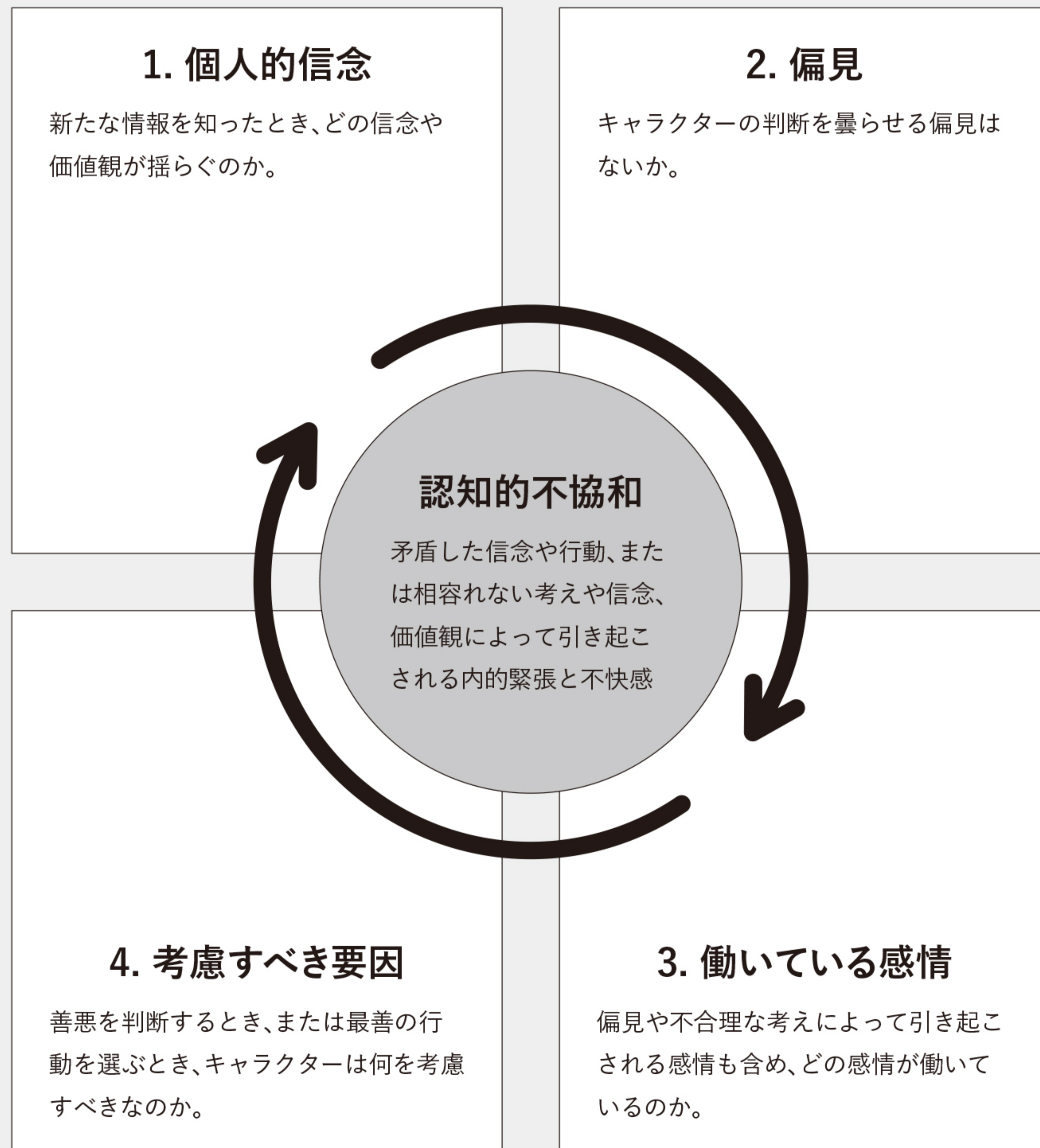
なぜ今動揺しているのか。
 激しくなっているのはどの感情で、それは耐えられないほどつらいものなのか。
 過剰に反応してはいないか、考えすぎてはいないか。
 同じ状況にいても他の人なら動揺するだろうか、それとも流すだろうか。
 何をいちばん恐れているのか。
 これに関わるべきなのか。
 現状のままでもいいのか、それともより良く、安全で、楽なほうに傾くべきか。
 この選択によって大切な人を傷つけてしまうのか。
 現状を維持し、関わらないと決めた場合は、どういう結果が待ち受けているのか。
 自分を変えたくて声を上げる場合は、どういう結果が待ち受けているのか。
 大切すぎて犠牲にできない信念はどれか。
 忠誠心は誰に(または何に)向けられているのか。
 _____(キャラクターが最も尊敬する人物)はこの場合どうするだろうか。
 正しい道よりも楽な道を選ぶ場合、後悔するだろうか。

変化を阻む考え

- × 自分は何も変えられない。
- × 自分が何かしたところで、事態を悪化させるだけだ。
- × 自分を変えるのはリスクだ。今の自分のままでいいではないか。
- × 自分の信念を明らかにして、決めつけられ疎外されるくらいなら、他人に追従したほうがいい。
- × どうすればいいのかわからないのだから、何もしないほうがいいだろう。
- × 変わろうとすると、必ず失敗する。

キャラクターの意思決定に 盛り込む4つの要素

キャラクターの信念を揺るがす何かがある。それが何なのかをキャラクターが知り、経験するとき、あるいはその存在に気づくとき、キャラクターの内面には認知的不協和が生じる。この不快感を解消するには、キャラクターは自分の心の中で対立する考えや信念に、あるいは自分の矛盾した行動に、もっともらしい理屈をつけ、どうすべきかを考える必要がある。書き手はキャラクターの意思決定過程に次の4つの要素を盛り込むことで、読者の関心を引きつけることができる。



このワークシートを用いて、キャラクターの内的不快感（認知的不協和）と結びつく要素を書き出してみよう。執筆時にはこれらの要素を盛り込みながら、キャラクターが重要な意思決定を下す過程を描いていこう。

